**教皇フランシスコのyoung people[[1]](#footnote-1)への手紙**

[**世界代表司教会議（シノドス）第15 回通常総会**](http://www.synod2018.va/content/synod2018/en.html) **準備文書（**[**英文**](http://www.vatican.va/roman_curia/synod/documents/rc_synod_doc_20170113_documento-preparatorio-xv_en.html)**、**[**和文**](https://www.cbcj.catholic.jp/wp-content/uploads/2017/06/synod15preparation_J.pdf)**）発表に際して**

原英文 <http://w2.vatican.va/content/francesco/en/letters/2017/documents/papa-francesco_20170113_lettera-giovani-doc-sinodo.html>

半訳rev.3　齋藤旬　20180106

親愛なるyoung people

こう発表できるのが私は嬉しいのです。2018 年10月のシノドスは「Young People, the[[2]](#footnote-2) Faith and Vocational Discernment[[3]](#footnote-3)」というテーマで開催される、と発表できるのが嬉しいのです。世の関心の的が皆さんになるのを私は待ち望んでいました。なぜなら、あなた方こそ私の意中の人（you are in my heart）だからです。そして今日発表された準備文書は、今回のsynodal journey（シノドスの旅）における「羅針盤」として、私の意中の人に信託する（entrusting）大切なものです。

神がアブラムに話されたことばを私は思い起こしています。「あなたは生まれ故郷、父の家を離れて、Go to the land that I will show you（私が示す地に行きなさい）」（創世記12・1）。この言葉は今、皆さんにも向けられています。皆さんに”Go !”（行きなさい）と、つまり未来に向かって出発せよと、招いている父なる神の言葉です。踏み入ったことがないのにfulfilmentへ続くと確信できる未来、即ち、父なる神ご自身が寄り添ってくださる未来、これに向けて出発せよと皆さんは招かれているのです。聖霊の息吹によって皆さんの心にも鳴り響くこの神の声を聴くよう、私も皆さんをお招きします。

神がアブラムに”Go !”と言われた時、神は何を言いたかったのでしょうか。神は決してアブラムを、彼の家族から遠ざけようと、あるいはthe world（人間社会）から離れさせようと、言ったのではありません。アブラムは、心を鷲づかみする招待状、すべてを置いて新しい地へ赴（おもむ）けというa challenge（一つの難題）を受け取ったのです。この「新しい地」とは何でしょうか。それは、young peopleである皆さんがこの地上世界で死を迎えるまで築き上げたいと心底望んでいるa more just and friendly societyに違いありません。

ところが不幸にも今日、”Go !”という言葉には異なる意味があります。即ち、権力の乱用、injustice、戦争です。そして皆さんの中の多くが、こういった暴力という現実の脅威にさらされnative landから逃げることを強いられています。この人たちの叫びは、エジプト王（Pharaoh）に奴隷にされ抑圧されたイスラエルの人々の叫び声と同様に、神に届きます（出エジプト2・23 参照）。

もう一つ思い出しましょう。かつてイエスが弟子たちに尋ねられた時に言われた言葉です。「先生……どこに泊まっておられるのですか」と尋ねられるとイエスは“Come and see”（来なさい。そうすれば分かる）と言われました（ヨハネ1・38）。そう、イエスは皆さんを見て御自分について来るよう招いているのです。親愛なるyoung peopleの皆さん、皆さんに向けられたこのまなざしに気付いたことはありますか。この声を聴いたことはありますか。この旅に着手したいという思いに駆られたことはありますか。騒音や困惑がこの人間社会（the world）に広く行き渡っているように外見的には（seemingly）見えますが、私は確信しています。この呼びかけ（this call）が皆さんの心の奥に響き続けその充満が皆さんの喜びとなるよう皆さんの心を開く。このことは、a journey of discernmentの着手方法を学べば学ぶほど可能となります。専門的な指導者と共に進めるので結構です。皆さんが、自分の人生における神のご計画を発見するためのa journey of discernmentにどう着手すれば良いか学べば学ほど可能となります。この旅が不確かで皆さんがつまずいても大丈夫。いつくしみ深い神は、皆さんを立ち上がらせるために手を伸ばしてくださいます。

Poland Krakow（クラクフ）での先回のWorld Youth Dayの冒頭に私は皆さんに、“Can we change things?”（私達は物事を変えることができるでしょうか）と何度か尋ねました。そして皆さんは”yes!”とshoutしました。決してinjusticeを許さない、a “throw-away culture”に屈しない、無関心のglobalizationに負けない、という皆さんの若々しい溌剌とした心がこのshoutを生んだのです。この様な、皆さん自身の内から湧き起こる叫び（cry）にこそ耳を傾けてください！皆さんが、預言者エレミヤのように、若さ故の未熟を感じる時でさえ、神は、ご自分が皆さんを遣わした場所へ行くように皆さんを励まします。「恐れるな。･･･わたしがあなたと共にいて必ずあなたを救い出す」（エレミヤ1・8）。

よりよい人間社会（a better world）は、your efforts, your desire to change and your generosity[[4]](#footnote-4)の結果として築かれると言えます。ですから、勇気ある選択を求める聖霊に耳を傾けることを恐れないでください。皆さんの良心（conscience）が、主に従うことに伴うリスクを負うよう求める時、先延ばしにしないでください。The Church also wishes to listen to your voice, your sensitivities and your faith; even your doubts and your criticism.[[5]](#footnote-5) （The Churchもまた、皆さんの声、皆さんの感受性、皆さんの信仰、そして皆さんからの疑いや批判に耳を傾けたいと望んでいます。）皆さんの声を聴かせてください。その声を、共同体の中で響き渡らせ、your shepherds of souls（司牧者たち）に聴かせてください。聖ベネディクトは大修道院長に、何か重要な決定の前にthe youngに相談するよう勧めました。なぜなら、「しばしば神は、最善なことをthe youngerにこそ顕す」からです（『聖ベネディクトの戒律』 III 3）。

このシノドスの旅においても同じです。兄弟である司教達と私は、さらにいっそう「あなたがたの喜びのために協力し」（2コリント1・24）たいと望んでいます。皆さんの様にa young person[[6]](#footnote-6)であり神が愛をもって見守られたナザレのマリアに、私は皆さんを信託（entrust）します。これでマリアはきっと皆さんの手を取って、神の招きに十分に惜しみなく応える喜びへと、皆さんを導いてくださるでしょう。そう、“Here I am”（はい私はここに居ります）（ルカ1・38 参照）と応える喜びへと導いてくださるでしょう。

父なる愛とともに

フランシスコ

バチカン、2017 年1 月13 日

1. 訳注：西洋言語には「人間」を表す世俗用語humanと宗教用語personとがある。ここでは後者が使われている。パウロ6世の1967年回勅Populorum Progressio（peoplesによる進歩）と通底する表現方法。 [↑](#footnote-ref-1)
2. 訳注：ここにtheが付いていることに注意。即ち「young peopleが持っている特定の信仰」を意味している。 [↑](#footnote-ref-2)
3. 訳注：“business is a vocation”ということを教皇はEG 176などで度々言及している。従ってvocationに「召命」という訳語を与えるのは適切ではない。またdiscernという用語を教皇は、appearance, phenomenon, formの奥底に隠されたsubstance, noumenon, ideaを「human understanding（人知）を超えて見極める」という現象学（phenomenology）的な意味合いで使っている。従ってdiscernに「識別」という訳語を与えるのは適切ではない。ここでは、vocational discernmentを「召命の識別」と訳さずに原英文のままにする。 [↑](#footnote-ref-3)
4. 訳注：全てにyourが付いていることに注意されたい。 [↑](#footnote-ref-4)
5. 訳注：ここでも全てにyourが付いていることに注意されたい。 [↑](#footnote-ref-5)
6. 訳注：ここでも世俗用語humanでなく宗教用語personが使われていることに注意したい。 [↑](#footnote-ref-6)